

ぴーす・ぴあ

発行：平和事務所 〒151-0053 東京都板橋区代々木1-17-9 アドハウス2F 「住民ひろば」 気付
TEL/FAX 03-3334-9770 郵便振替口座 00180-7-111220

宮 沢 俊 一 君

長瀬 隆

1932年東京生まれ。1951年早大一文露文入学。チェーホフを中心とするロシア戯曲、モスクワ芸術座の演劇理論であったスタニラフスキー・システムを勉強。演出家をめざして劇団民芸にはいる。後に文化座に移り、その女優早乙女道子と結婚。60年代末彼女らとともに劇団群像座を旗揚げ。しかし演出家としては成功しなかった。

70年代にはいりモスクワ大の10か月語学ゼミナールに参加。その後にソ連の外国むけの図書・雑誌の出版社であったプログレイスにはいり、6年にわたりその対日翻訳業務に従事。この間足しげく観劇し、演劇人と交わり、ソ連演劇の抜群の精通者となり、同時に傑出した語学力（わけても会話力）を身につけた。

80年代にはいり東京にロシア関係専門の出版社である群像社を起こし（当時は副社長、後に社長）、自身翻訳に従事するとともに、今日までに多数の翻訳書を刊行した。86年新星堂にロシアの詩人・朗読者ヴィソツキーのCD制作の企画が生まれ、吉田嘉清の求めにより、私とその翻訳者として彼を推挙・紹介。この縁はさらにオクジョヴァのCDへと発展した。そして吉田および私をふくむ平和事務所との関わりは、エストニア・チェルノブイリ・ヒバクシャ基金による、90年の2人のエストニア人来日の際、記者会見・川崎での集会での主要な通訳者の仕事へとつながった。翌91年5月の吉田を団長とする訪バルト3国代表団にも加わり、エストニアの日程の3分の2を付き合ってくれた。

宮沢は稀にみる真からのロシア好きであった。同学でありながら、ある時期から私がソ連嫌いになったのとは対照的であった。バルト3国はソ連からの分離・独立を目指していたが、その彼らにたいしゴルバチョフを信じてソ連に留まるよう説教するのを私は見ている。それに関連してターリンで一夕話あったことがある。彼はソ連の崩壊があらうとは夢にも思っていなかった。しかしその予兆は感じられていて、「一体何を考えていたのだろうか」とぼやいていた。この年の末クレムリンのソ連旗はおろされた。

この後私は彼とは話しあったことはない。会えば「どう、ぼくが言って（かつ書いて）いたとおりになったでしょう」と言わざるをえなく、しかし私にそういう趣味はなく、なによりも多忙だったためである。昨夏「彼が（健康状態が）非常に悪い」と聞いた。しかし11

月にしばらくぶりで持たれたクラス会には、彼はモスクワに行っていて欠席した。そして今年になって2月20日に、入院中であること長くもたないことを知り、22日吉田氏とともに見舞った。ベッドでテレビを見ていて、私にたいして「奥さんの具合はどう？」と問うた。死にゆく人にわが妻の心配をしてもらって私は参った。いささか涙ぐんだ次第である。私たちは『早稲田1950年資料と証言』という5号で完結予定の季刊雑誌を刊行していて、私は評論「松尾隆」（早大教授）を連載してきた。5号は昨年暮れに出て彼には送ってあった。これについて「松尾さんのは、あれで完結？」と問うた。翌々日24日朝に死去、67歳。

89年に生涯の伴侶だった道子さんを失って以来、彼が拒食症であったことはだれもが知っていた。原因は精神的なものであると当人も周囲も思ってきた。しかし喪主の弟さんの語るところによれば、医者と病院が嫌いですと検査を拒否してきたのだそうである。今年になって本人が望んで入院して肺がんであることが明らかとなった。とうに手遅れで死に至ったものである。彼は一度ならず「死にたい」ともらしていた。「飛行機が事故で墜落しても、自分がかまわない」と言うのだから、その死は緩慢な自殺であったということになる。

そんな状態でありながら彼はじつによく仕事をしていた。70年代末に演出家を招いて、自身の新訳かつ通訳で劇団東演に『桜の園』を上演させ、さらに80-90年代には数度にわたって劇団を呼んで日本公演を実現させている。いずれも話題を呼んだものであった。彼の死による喪失は日本側におけるよりも、ロシア側において大きいのではなかろうか。

(なげ たか/作家)

<平和事務所懇談会のご案内>

東海村・臨界事故（住民被曝）に思う

原発と原爆（核兵器）は同じもの

昨年の9月30日に起きた東海村での核燃料加工施設での臨界事故は、日本のみならず世界にも大きな衝撃を与えました。この事故の教訓から私たちは何かを学んで行かねばと考え、久しぶりに上記表題のもと、下記の通り懇談会を計画致しました。皆さん方多くの方のご参加をお願い致します。

<記>

- ◎日 時 2000年3月30日（木） 午後7時～9時
- ◎会 場 たんぼ舎会議室（〒101-0061東京都千代田区三軒2-6-2 タイヤビル5F Tel 03-3238-9035）
- ◎講 師 柳田 真（たんぼ舎）氏
- ◎参加費 700円
- ◎主 催 平和事務所